



「かかわる力」を育成する幼小中一貫教育の活動と
その特質(その2)

-宮崎大学教育文化学部附属学校園の取組2
主たる目標事項とする活動において-

| | |
|-------|--|
| メタデータ | 言語: jpn 出版者: 宮崎大学教育文化学部附属教育協働開発センター 公開日: 2014-04-07 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 安藤, 真二, 鵜戸, 周成, 福島, 祐子, 河原, 国男, Sinji, Ando, Udo, Shusei, Fukushima, Yuuko メールアドレス: 所属: |
| URL | http://hdl.handle.net/10458/5802 |

「かかわる力」を育成する幼小中一貫教育の活動とその特質 (その2)

— 宮崎大学教育文化学部附属学校園の取組②
主たる目標事項とする活動において —

安藤真二* 鶴戸周成** 福島裕子*** 河原国男

The Characteristics of Unified Educational Activities from Kindergarten and to Early Secondary Levels in order to Foster Each Child's Abilities to Relate to Others and Things (Part2) : Focusing on Extra-Curricular Activities based on the Same Objectives

Sinji ANDO* , Shusei UDO , Hiroko HUKUSHIMA*** and Kunio KAWAHARA**

1 はじめに

本稿は一連の論稿とともに(以下、本研究)、宮崎大学教育文化学部(平成28年度以降は教育学部)附属幼稚園・小学校・中学校(以下、3附属学校園)において「かかわる力」を育むということが一貫した教育目標としてどう位置付けられ、どのような教育活動として展開しているかをまとめ、その取組の特質を考察するものである。「かかわる力」の概念については、本研究の(本研究紀要、第24号掲載の同名論文その1)において規定した。特に本稿では、「かかわる力」を3附属学校園の具体的な教育活動において明確に目標事項として設定しているものをとりあげる。

2 「かかわる力」を育む活動 —主たる目標事項とする活動において—

1) 附属幼稚園 —「もくせいの時間」の取組—

① 附属幼稚園のコミュニケーションスキル活動と「もくせいの時間」について

附属幼稚園において「かかわる力」の育成を明確に目標設定しているのは、コミュニケーションスキル活動である。身の回りで発生している問題の背景には、人とのかかわり方を知らない子ども、かかわり方を間違っていて覚えている子どもが増えてきていることがあげられる。そこで子どもの対人関係能力を育てるためにコミュニケーションスキル活動に取り組むことにした。コミュニケーションスキルとは、ソーシャルスキルの一つであり、自分の思いを伝えたり、言葉をかけたりするなど他人にかかわる際に使う技能のことである。言葉だけに限らず、視線やうなずきなど自分が発する全てのメッセージを含む。メッセージが自分の思い通りに伝わればよいが言葉遣いや表情、態度等が適切でないため、相手に誤解され、自分が意図していない伝わり方をしたり、それが原因で人間関係がうまくいかないこともある。この活動では、自分の

*宮崎大学教育文化学部附属中学校校長

**同附属小学校校長

***同附属幼稚園園長

意見を適切に相手に伝えるためのスキルを学習する。また、コミュニケーションスキルは、どんな子どもも訓練するとかならず身に付けることができるものである。発達的に早い段階から人間関係に関する知識や他者に対する反応の仕方を学んでおけば、それ以降の対人的な対応に適切な対処ができる可能性があるので、予防的に学級単位でとり入れている。

これまで、人とかかわる方法は遊びの中で個別に教えてきたが、その場面での指導であり、系統的な指導ではなかった。人とかかわり方を幼児期に教えることは大切であり、スキルの内容を全員に教える必要性を感じたために、平成15年以来、特別に時間を設定し、この時間で学んだスキルを子どもの生活全般で生かしたり実践したりすることができるようにしたいと考え「もくせいの時間」と名付けている。そのねらいを、対人関係能力を身に付けるためのスキルを学び、日常生活の中で生かし、よりよい人間関係を築くとともに、自他ともに大切にする心を養う、と明確化した。

② スキルの習得で期待する姿

コミュニケーションスキル活動を通じて、子どもたちに園として期待するのは、次のような成長の姿である。

○ 人の思いが分かる

言葉や表情、動きなどから相手の気持ちに気付き、受けとめられるようになる。

○ 自分の思いを伝える

自分自身がどんな思いをもっているかに気付き、その場に合わせて、言葉や表情、動きで伝えられるようになる。

○ 人とのつながりを大切にしようとする

人とかかわることに喜びを感じ、お互いを認め、仲よく協力するようになる。

○ 自尊感情が育まれる

自己表現の方法が身に付き、周囲と円滑にかかわりながらコミュニケーションスキルを使う

表1 附属幼稚園 コミュニケーションスキル活動の年間指導計画

| 時期 | 4月 | 6月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 |
|------------------|------------|--------------------------|-----------------------------------|----------------------------------|-----------------|--------------------------------|---|-------------------------------|
| 3歳児 | | | あいさつ①おはよう 【紙芝居】A | | ありがとう 【紙芝居】A | | 仲間の入り方① 【親子ゲーム】A | 道具の借り方① 【親子ゲーム】A |
| 4歳児 | 友達の名前を呼ぼうA | あいさつ②いろいろなあいさつ 【紙芝居】A | | 仲間の入り方② 【ゲーム】A | | | 上手な謝り方 【絵本】A | 上手な話の聴き方①D |
| 5歳児 (もくせいの時間) | | 上手な話の聴き方②A | あたたかい言葉のかけ方① (やさしい言葉をかける) B | あたたかい言葉のかけ方② (よいところをほめる) B | 道具の借り方②A | あたたかい言葉のかけ方③ (やさしい頼み方) D | あたたかい言葉のかけ方④ (友達の気持ちに気付いたときの言葉) B | 5年生との合同学習「いっしょにつくってあそぼう」 E |

A (傾聴力・発信力) B (状況把握力) C (課題設定力) D (方法選択力) E (課題遂行力)

ことで人間関係が良くなる。そのことが友達関係での有能感を育て、自分のことも相手のことも大切に思えるようになり、自己肯定感や自尊感情を育てることにつながる。同様に、友達の個性をよさとして認め合うことができ、自分も友達もかけがえのない存在と知った子どもたちは、自分も友達も大切にしようとする（表1）。

③ 親子で学ぶコミュニケーションスキル

5歳児のコミュニケーションスキル活動「もくせいの時間」では、ねらいを達成するために、ほとんどの活動では、教師が中心となり、教えたスキルを言葉で説明したり、手本として見せたりしながら進めているが、保護者の協力も不可欠である。グループでの練習場面では保護者の協力を得て活動を行っている。それは、この時期の子どもの発達段階から、子どもたちだけの相互評価はまだ難しく、スキルの定着や一般化、維持を図るために、そして、幼稚園でも家庭でも一貫してコミュニケーションスキルを強化するためにも、保護者の協力が必要であると考えられるからである。また、保護者も活動に参加しながら、ほめるスキルを学んだり、子どもと一緒にスキルを確認したりすることができるため、日常生活への定着化が促進されることが期待できる。

各年齢の保護者には、幼稚園で実施したスキル活動の内容と獲得させたいスキルのポイントを伝え、家庭で子どもが用いたスキルを5歳児は「もくせいカード」で、3・4歳児は「スキルカード」で報告してもらっている。子どもに教えた内容を保護者に紙面で伝え、家庭で子どもがそのスキルを使っているかを一週間程度の子どもの様子を見てもらい、担任に結果を報告してもらおうシステムにしている。そのことで、保護者自身が、コミュニケーションスキル活動の大切さや必要性、スキル定着のための家庭での実践の大切さなど再確認することができる。

5歳児の活動（もくせいの時間）に協力した保護者の活動直後の感想の一部を下記に紹介する。

2時間目の感想：「子どもたちが照れながら一生懸命にやっている姿を見て、うれしかったです。なかなかほめてやっていないので、自分も子どもをやさしくほめてあげたいと思いました。」

5時間目の感想：「1回目にお手伝いをしたときから比べると、子ども達みんなが真剣に考えて行動することができていて、子ども達の成長に驚きました。もくせいの時間で学ぶたびに、とてもやさしく成長していることを嬉しく思います。」

「スキルカード」および「もくせいカード」での報告内容

3歳児の保護者から

「あいさつ①」の活動後：「朝起きてからすぐの「おはよう」は、いつも私を探して言ってくれます。幼稚園では、園長先生にいつもよりも大きな声であいさつできていました。その時に、園長先生と私からほめてもらえてうれしかったみたいで、次の日から朝の車の中で「今日も大きな声で『おはようございます』って言うからね」とはりきっています。見てあげて、ほめる大切さ、私も勉強になります。」

4歳児の保護者から

「仲間の入り方②」の活動後：「スキル活動を学んだその日の園庭開放で、早速年長さんの男子に「サッカーのなかま入れて」と声をかける場面が見られました。普段一緒に遊んでいないお友達に話しかけることは娘にとって、大きな勇気が必要だったと思います。スキル活動の中で、みんなと練習できたこと、先生からいっぱいほめてもらったことが大きな自信になり、この勇

気につながったのだと思います。ありがとうございました」。

5歳児の保護者から

「あたたかい言葉のかけ方①（やさしい言葉をかける）」の活動後：「家庭でもあたたかい言葉をかける機会が少しずつ増えてきました。母親にも『いつもおいしいご飯を作ってくれてありがとう』とやさしく言ってくれるのでうれしい気持ちを伝えます。小さなことでも人の良いところを見つけ、それを相手に伝える大切さをこれからも練習していきたいと思います」。

④ 照れてやりたがらない子どもへの対応及び日常への生かし方

ほとんどの子どもの場合は、コミュニケーションスキルを習得して、期待する姿を示しているが、5歳児の各グループでのロールプレイでは、友達や大人に見られているということで練習ができない子どもの姿が見られる。そのような子どもの姿は当然であると教師側が思うようにすると、その場ではできなくても、日常生活の場面でそのスキルを使っている姿を確認したり認めたりすることを心がけるようにする。何度かロールプレイを経験すると、教師と一緒にであればできるような子どももいるので、その時々で本人がどうしたいのかを確認することも大切である。

日常生活の中で教師が意識してスキルを使っている子どもを探ったり認めたりするようにしてきたところ、教師や保護者からほめられたり認められたりしてきた。そのことにより自信を持った子どもたちは、泣いている友達の姿に敏感に気付いて声をかけたり、友達が頑張っている姿をほめたりすることが多くなったと思われる。園生活の中で、あたたかい言葉をかけ合う子どもたちに成長を感じている。

表2 「かかわる力」を育成する幼小中一貫する目標系統表

| 附属学校園における「かかわる力」について | | 宮崎大学教育文化学部附属学校園 H27.3.11 作成 | |
|----------------------|--|--|---|
| 能力 | 幼稚園 | 小学校 | 中学校 |
| 傾聴力・発信力 | ・自分の考えを相手に分かるように話したり、友達の考えを聴いたりして、伝え合いながら、分かり合おうとする。 | ・相手の考え・意見を受け止めて、仲間同士の考えのよさや共通点・相違点を考えたり、複数の考えが整理できないか考えたりしながら聴くことができる。 ・相手の言いたいことが分かり、自分の言葉でも伝えることができる。 | ・相手の話をしっかり聴いてから、自他の考え方・意見を整理し、相手にわかりやすく伝えることができる。 |
| 状況把握力 | ・人やもの、自然にかかわる中で、自分と友達の考えや工夫の違いに気付くようになる。 | ・状況を判断するために、周囲からできるだけ正確な情報を得ようとする。 ・入手した情報をもとに自他の状況を冷静に見つめ、整理することができる。 | ・情報源に注意しながら、複数の情報源から正確な情報を得ることができる。 ・入手した情報をもとに、周囲の状況（配慮すべき対象も含めて）から自他が求められている役割や、自他のよさや特性を生かした役割を把握することができる。 |
| 課題設定力 | ・人やもの、自然にかかわりながら、同年齢や年下の友達と一緒にしたい遊びを決めて取り組もうとする。 | ・多様な情報を収集し、整理・分析するなどしてまとめることができる。 ・解決すべき問題について他者と意見を交流し、優先順位を考えながら課題を見出すことができる。 | ・自分の考えを他者の意見と比較しながら、解決すべき問題について、客観的に整理することができる。 ・解決すべき複数の問題群から、優先順位をつけて取り組むべき課題を明らかにすることができる。 ・課題を明確にするために他者の意見を積極的に求めることができる。また、意見を振り返り、交流しさらによいものにするすることができる。 |
| 方法選択力 | ・自分の気持ちや考えを自分らしく表現するために、もの、ことになれるから、言語的、身体的、音楽的、造形的な活動で試そうとしたり、工夫したりする。 ・園生活の中で生じる問題を解決するときに、先生と相談したり、友達と話し合ったりしながら、公平なルールを考えたり、折り合いをつけようとする。 | ・課題解決に向けて、見通しをもち筋道を立てて方策を考えることができる。 ・今までに学んだ知識や収集した情報、経験を最大限に発揮し、様々な方法を用いて解決することができる。 | ・課題解決に向けて、進行状況や場の状況に合わせて、計画を立案・修正することができる。 ・今までに学んだ知識や収集した情報、経験を最大限に発揮し、お互いに協力して従来の常識や発想を転換したり、複数のものを組み合わせた新しいものや解決策をつくり出すことができる。 |
| 課題遂行力 | ・人やもの、自然にかかわりながら、積極的に好きな遊びに取り組む、達成感や充実感を味わう。 | ・何事に対しても、自分から、自分達から取り組み、与えられた仕事を責任もってやり遂げることができる。 | ・何事に対しても自発的に強い意志をもってかわり、最後までやり遂げることができる。 |

⑤ 「かかわる力」との関連

「もくせいの時間」の実践をとおして、目標系統表（表2）が示すように、本研究でいう「かかわる力」の育ちを園における子どもたちの姿に確認できる。それにともなって、教師自身も子どもがコミュニケーションスキルを使おうとしている姿を捉えて認めたりほめたりするようになり、子どもをほめる視点が増えてくる。そのような教師の意識の変化も成果といえる（表2）。

2) 附属小学校 ー生活科単元「わっしょい 元気まつり」の実践ー

附属小学校において「かかわる力」の育成を明確に目標設定しているのは、生活科単元「わっしょい 元気まつり」の実践（第2学年：田代見二、甲斐淳朗、野邊麻衣子、外山千佳）である。

① 「わっしょい 元気まつり」の実践における「かかわる力」

第2学年生活科単元「わっしょい 元気まつり」は、「自分たちの願いを生かした楽しい祭りを計画し、実行することにより、人々の願いや協力に気づき、自分たちの生活を工夫したり楽しくしたりしようとする気持ちを育てる。」ことを目標としている。

1年生並びに幼稚園児、そして保護者、総計約200名程度をまつりに招待し、まつりの内容・出し物等を自分たちで企画、作成、運営し、まつりを実施に移す活動である。

2年生相互のかかわり、2年生と招待者である1年生並びに幼稚園児、そして保護者等のかかわりは勿論であるが、まつり実施に向け、

○ 「課題遂行力（何事に対しても、自分から、自分達から取り組み、与えられた仕事を責任をもってやり遂げることができる。）」については、まつり実施に係るさまざまな課題を子ども同士が共有し、それをどのように実施までに解決していくか。


○ 「方法選択力（課題解決に向けて、見通しをもち筋道を立てて方策を考えることができる。／今までに学んだ知識や収集した情報、経験を最大限に発揮し、様々な方法を用いて解決する。）」については、その課題遂行する中で、どのように解決していくか。

の2つが特に求められると考えている。

② 「わっしょい元気まつり」の概要と活動の実際

○ 前日までの準備

表3 附属小学校 「わっしょい元気まつり」活動計画の概要

| 活動計画及び内容 | |
|--|--|
| <ul style="list-style-type: none"> ○ 幼稚園の受付 ○ はじめの会（進行：先生） <ul style="list-style-type: none"> ① はじめの言葉（2年生全員） ② 先生の話 ○ <u>第1部</u>（おみこしかつぎ） <ul style="list-style-type: none"> ・ 8～10人1組で行う。 （次のグループはうちわであおぐ。） ・ 幼稚園児を間に3～4人ずつ入れるようにする。 ・ 1組から反時計回りに回る。1周回ったら交代（6周） ○ 出店の準備 ○ <u>第2部</u>（出店開店） ○ おわりの会（進行：先生） <ul style="list-style-type: none"> ① 感想発表（幼稚園代表園児、1年代表児童） ② 先生の話 |  |

「みこしの飾り付け」と「出店の準備」が2年生児童の活動課題となる。

「みこしの飾り付け」は学級全員で、「出店の準備」は2～4名程度の小グループに分かれ、それぞれにアイデアを出し合いながら準備を進める。

○ 当日の活動

「わっしょい元気まつり」当日の活動計画の概要は前頁のとおりである(表3)。

まつりの前半(オープニング)に、幼稚園児と共にみこしを担ぎ、活動を盛り上げる。担ぎ役、うちわの扇ぎ役を全員が務める。

幼稚園児に声をかけ、担ぎ方や扇ぎ方を丁寧に伝え、みんなで協力して会場を一周する。

これまでの学校外でのまつりの経験や体験、見聞きしたことを基にして、まつりの前半(オープニング)を盛り上げた。

また、まつりの後半は、これまでに小グループで準備してきた出店を幼稚園児、1年生、そして保護者をお客さんとして、開店する。

出店の例としては、くじ引き、金魚すくい、ビー玉転がし、ボーリングなどがある。児童の発想を生かして、道具作り、場の設定、ルール作りなどが行われた。

③ まとめ

2年生児童の感想を下に示して、まとめとしたい(資料1)。

資料1 附属小学校 「わっしょい元気まつり」後の児童の感想

| | |
|---|---|
| <p>日本一!元気まつり 今日、1時間目から4時間目まで、生かつてわっしょい元気まつりがありました。とってもたのしかったです。ようち園生や、1年生たちとたくさんのお父さんお母さんが来たので、きんちょうしました。リハーサルのときより「ボーリング(ゴリラ)」のお店におきやくさんがいっぱい来てくれたのでうれしかったです。日本一のわっしょい元気まつりになりました。</p> | <p>こころをこめて 今日、わっしょい元気まつりをしました。れんしゅうの時、ぜんぜんこなかっただけどわたしも思ったよりもおきやくさんが来てくれてうれしかったです。だから一つ一つ心をこめてつくってよかったなっていっぱい思っています。そして、わっしょい元気まつりがあつてありがたくなってみたらいろいろ思い出があつてもうすぐくうれしかったです。</p> |
| <p>たくさんのお客さんでまつり 今日、わっしょい元気まつりがありました。ほくは、このまつりをとおして、お店を出したいへんさを知りました。けいひんをもらってくれたときのうれしさも知りました。でも、お店を出さるときは、たいへんであり、たのしかったです。いろいろなお店を出しているときの気もちがよくわかりました。ごこのはんもいっしょうけんめいよびかけていて、たのしかったです。</p> | <p>わっしょい わっしょい 今日、わっしょい元気まつりがありました。そして、今日はこころのじゅんぴがひつようでした。とてもたのしみにしていました。わたしの心は、止められなくて、とてもはるはるしていました。はじめのごときは、2のおみんがでれんしゅうしたので、たのしい一日になりそうです。みこしをかつかつと、みんがで「わっしょいわっしょい」と言います。出店は、やっぱりスーっと、ならんでいました。今日一日はさいごうの1日、いつもとちがう1日、2年生で1回しかない1日でした。とってもたのしかったです。</p> |
| <p>おきやくさんたくさん 今日、わっしょい元気まつりがありました。ほくのお店は、しゃてきと金魚すくいとビー玉ころがしです。中でも、一ばん人気は、金魚すくいとしゃてきです。さいごう、50人ぐらのおきやくさんが来てくれました。けいひんは、60ごなので10ごあまりました。さいごは、ただであげました。日本一のわっしょい元気まつりができてよかったと思います。とってもたのしかったです。</p> | <p>力をあわせて 今日、1時間目から4時間目までわっしょい元気まつりをしました。ほくたちのお店は、くじびきやです。ほくは、パンコ、りょうくんはしゃてきで、かんがさんくじ引きの人で、ふみさんはそのせつめいをする人です。さいごうの元気まつりでした。力をあわせて、せいこうしました。</p> |

これら児童の感想から、前述した(まつり実施に係るさまざまな課題を子ども同士が共有し、それをどのように実施までに解決していくかという「課題遂行力」と)その課題遂行する中で、どのように解決していくか「方法選択力」の双方が、まつり本番に向けた活動の過程のなかで培われていることを読み取ることができよう。

3) 附属中学校 — 「生徒総会」「宿泊研修」 —

附属中学校における「かかわる力」を育む代表的な学習計画実践事例として、二つの行事を紹介したい。それは「生徒総会」（担当：山本延久）と「宿泊研修」（担当：福良維素子）である。以下に今年度の例を記載する。

① 「かかわる力」（中学校）

中学校における「かかわる力」の5つの能力は下記表4のとおりである。

表4 附属中学校における「かかわる力」の5つの能力

| 能力 | 附属中学校 |
|--------------|---|
| A 傾聴力・発信力 | ・ 相手の話をしっかり聴いてから、自他の考え方・意見を整理し、相手にわかりやすく伝えることができる。 |
| B 状況把握力 | ① 情報源に注意しながら、複数の情報源から正確な情報を得ることができる。 ② 入手した情報をもとに、周囲の状況（配慮すべき対象も含めて）から自他が求められている役割や、自他のよさや特性を生かした役割を把握することができる。 |
| C 課題設定力 | ① 自分の考えを他者の意見と比較しながら、解決すべき問題について客観的に整理することができる。 ② 解決すべき複数の問題群から、優先順位をつけて取り組むべき課題を明らかにすることができる。 ③ 課題を明確にするために、他者の意見を積極的に求めることができる。また、意見を振り返り、交流してさらによいものにするすることができる。 |
| D 方法選択力 | ① 課題解決に向けて、進行状況や場の状況に合わせて、計画を立案・修正することができる。 ② 今までに学んだ知識や収集した情報、経験を最大限に発揮し、お互いに協力して従来の常識や発想を転換したり、複数のものを組み合わせたりしながら新しいものや解決策をつくり出すことができる。 |
| E 課題遂行力 | ・ 何事に対しても自発的に強い意志をもってかかわり、最後までやり遂げることができる。 |

② 行事の概要と「かかわる力」との関係

以下のような項目により、平成27年度の2つの行事を整理した（表5）。

表5 附属中学校 2つの行事と「かかわる力」との関係

| 1 名称 | 生徒総会（5/7） | 宿泊研修（4/27・28） |
|--------|--|---|
| 2 対象学年 | 全学年 | 第1学年 |
| 3 目標 | (1) 附属中学校生徒会を、全校生徒の力により良いものにするための方向性を見出す。 【協力】 (2) 共通する課題に対しお互いの意見を出し合うことで、生徒一人一人の附属中学校生徒会への所属意識を高める。 【協力・気品】 | (1) 宿泊的行事を通して新しい出会いを喜ぶとともに、集団生活の規律を学ぶことで友達の個性を理解し、協力・友愛の精神を深める。 【協力】 (2) 公共の施設や豊かな自然の中での研修を通じて、社会的マナーやエチケットなど時と場所に合った言葉遣いや態度を身につける。 【気品】 |

| | | | |
|---------------------------|--|--------------------------------|--|
| 4 学習活動 (概要、教育課程上の位置付け) | 5つの議題 「平成26年度決算報告」「平成27年度生徒スローガン」「平成27年度予算案」「平成27年度総務及び全校専門委員会活動内容及び活動方針」「気品について～基本のある登下校～」 | | 主な学習活動 入所式・オリエンテーション・集団訓練・「若い力」練習・火起こし・野外炊飯・班会会・班会、朝のつどい・部屋清掃・点検、砂の造形（雨天時 室内オリンピック）奉仕活動、退所式 |
| | 教育課程上の位置付け＝特別活動 | | 教育課程上の位置付け＝学校行事 |
| 5 「かかわる力」との関連（主として） | 傾聴力・発信力 状況把握力 課題設定力 方法選択力 課題遂行力 | A○ B①② C①②③ D①② E○ | A○ B①② C①② D①② E○ |
| 6 備考 | 総務会 4/3、7、9、14、22、5/1 臨時中央委員会 4/9、14、15、22 各種委員会 4/16 学級活動 4/24 生徒総会 5/7 | | 事前準備 学級活動 3H 歯科検診・心臓検診の待ち時間 4H 事前指導 1H 事後指導 1H これ以外に生徒の実行委員会会議を8回程度実施(4/8～) |

③ 2つの行事と「かかわる力」について

表4から明らかのように、5つの能力のうち、特に「傾聴力・発信力」「状況把握力」「課題設定力」「方法選択力」を磨くよい機会となっている。この行事は、予定どおりにいかない場合、臨機応変な対応を求められる活動を含んでいる。「かかわる力」は、このような場合に力を発揮することが期待される。

3 考察

本稿では、それぞれ名称は異なり、内容も異なっているが、いずれも「かかわる力」を身に付けることを意味する目標が、明確に位置付けられている。一連の流れとしてどのような成長の系列がたどれるかに留意しつつ、その特質をここに整理しよう。

第一に、「かかわる力」の諸能力は、「課題設定能力」を除いて幼稚園教育段階から身に付けられ、基盤的な意味を示している。「あたたかい言葉をかける」などは、幼児にとってはすでに課題として設定されているものである。そうした制約はあるが、その能力以外の「かかわる力」はこの活動によって幅広く育まれている。

第二に「かかわる力」は、幼・小・中の段階を経て発展的に育まれている。附属幼稚園でのコミュニケーションスキル活動は、広い園庭や保育室、遊戯室を自由に活動する「好きな遊び」を基本とする本園では、例外的に設定的性格をもっている。場所も、原則的に保育室に限定されている。対人関係能力を適切に対応できる知識とスキルを習得するその活動は、条件付けられた習得である。それに対比して小・中ではどうだろうか。

小学校2年生の「わっしょい元気まつり」では、幼稚園児に比べ、空間（保育室から体育館）や対象者（小学校1年生と年長児と保護者）も広がるが、限られた時間で準備、実施し、とりわけ「方法選択力」「課題遂行力」の発揮が求められる。児童の感想がうかがえるのは、与えられた課題に責任をもってやり遂げることを意識したものであり、「幼稚園児と共にみこしを担ぎ、活動を盛り上げる」という課題を共有し、「課題遂行力」に対する児童自身の期待を表して

いる。そして課題解決に向けて、道具作り、場の設定、ルール作りなど方策を自由に考える「方法選択力」も発揮して、「課題遂行力」を現実に発揮している

中学校の生徒総会、宿泊研修では、さらに、空間が体育館から学校全体、地域社会へ、対象者も全生徒、地域へと広がり、「方法選択力」「課題遂行力」に加え、「傾聴力・発進力」「方法選択力」も要請される場面が少なくない。生徒総会や宿泊研修は、事前に予想して準備をしても、当日の主たる意見の流れや天候等の予想しない事態の変化に対して、臨機応変に対応する力が求められる。そうした事態に対して、生徒たちは、これらの能力を自分のものにして発揮することができている。

第三に、「かかわる力」を主たる目標事項として位置づけ、より発展させるために、それを許容し、積極的に促す環境が用意されている。幼稚園でのスキルトレーニングでは幼児の保護者の参加と理解が、その活動を成り立たせる。その環境は、示唆的である。小・中学校でも－保護者は参加しないが－児童・生徒自身に積極的に「方法選択」の活動を促し引き出す受容的な気風が教師たちの働きを通じて醸成されている。

3 附属学校園において「かかわる力」を育むことを主たる目標事項とする活動は、以上のような特質を示している。

執筆分担：

- 1 河原国男
- 2 1) 福島裕子
2) 鶴戸周成
3) 安藤真二
- 3 河原国男、安藤真二、鶴戸周成、福島裕子